

三月十一日に発生した東日本大震災で亡くなられた方々に哀悼の意を捧げると共に、被災された方々(同窓生の中にも、被災された方がおられる)と承りました。)に対し、心からお見舞い申し上げます。

世界最大の地震はM九・四。今回の地震は世界第四位でM九・一。その揺れの激しさと大津波の発生には、恐怖の一言でしか表現出来ません。

会報第三号の巻頭文に、「学校は地域と共に」「地域は学校を中心として」と書きました。今回の被災者の避難場所は、そのほとんどが小中学校の体育馆であり、教室そのものでした。現在でも避難場所として使用されている学校があります。卒業期・入学期ということもあり、避難者の方々も子供達の学習の場を占拠していることへの気遣いが見られました。学校と地域との繋がりを、これ程強烈に感じられたことはありません。

阪神大震災及び今回の未曾有の巨大地震により、人は人に対し、他の生き物に対し、やっとやさしくなれたよう



学校前歩道 ボランティア活動

な氣がしています。悲しいことです
が、この度の災害で消えてゆく学校が
出てくるでしょう。少子化・過疎化で
消えゆく学校あり。統廃合で名称が変
わる学校あり。こうした時代に、母校
が厳然として存在することへの喜びを
咬みしめて欲しいものです。

今回の震災をきっかけに、あらためて学校との繋がり、自分との繋がりを
再考してみては如何でしょうか。さあ、
皆で頑張りましょう。

本校は、幸いな事に校舎内の壁に無数のヒビが入つたり、トイレのタイルが剥がれたり、体育馆のギャラリーの壁が少し崩れ、電球三~四個壊れた程度の被害で済むことができた。地震直後は、体育馆に約千人を超す人々が避難した。雪も舞ってきて大変な状況になり、体育馆と武道館を開放し避難所を開設した。そこで、活躍したのが上中生によるボランティア活動であった。停電・断水・ガスの使用出来ない中での避難所である。真っ暗なトイレの前で懐中電灯を照らし続ける姿、教師と共にトイレの使用法を説明する生徒の姿、トイレの水を確保するためブールから水を汲み運ぶ姿、アルファ米を炊き出す為の水を教師と共に求め歩く姿、渡り廊下を壊し薪づくりをする姿、手の消毒を手伝う姿、ゴミ拾いをし清掃をする姿等々たくさんのがんばらしいボラン

ティア活動を見ることができた。また学校が始まり集会の時に「私たちは被災したが幸いなことに程度は軽かつた。私たちだからできることを考え行動に

いた

逆に上杉山中の姉妹校である北海道白老町立萩野中学校からは、励ましのメッセージと義援金をいただいたらしくて。最近「糸」という言葉をよく耳にするが、まさに「糸」を感じる日々である。

上杉連合町内会長から感謝状をいたしました。

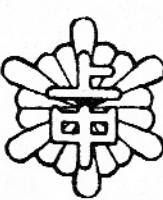
「貴校生徒は、3・11に発生した東日本大震災において、地域住民の避難生活に大きく貢献しました。ボランティアとして避難所の夜間のお世話や……。その姿は地域住民を大いに励まし震災直後の苦難の中、一筋の光のように私たちの心を明るく照らしてくれました。よって感謝の意を表します。」



学校と地域の繋がり

同窓会 会長 佐々木

(十一回生) 博



杉山臺

会報第4号
平成23年10月15日(土)
発行所
仙台市青葉区上杉6-7-1
上杉山中学校同窓会
発行責任者 佐々木 博



苦難の中の一筋の光のようない

上杉山中学校 校長 相場 啓司



平成22年度卒業式 (H23.3.23)

移そう」と
投げかけた
ならば、生
徒会を中心
に話し合
い、全員の
上靴がなく
S.O.S.を出
している三
陸町の戸倉
中への募金
活動を行
い、義援金
をおくつた。
メッセージと義援金をいただいたらしくて。最近「糸」という言葉をよく耳にするが、まさに「糸」を感じる日々である。

励まし震災直後の苦難の中、一筋の光



仙台市立上杉山中学校同窓会 KKRホテル仙台 平成22年10月16日

同窓会 懐感

十八回生 飯淵雅国

(旧姓 平野)

昭和三十九年から四十二年までの三年間は、おかげ様で楽しい中学生生活を過ごさせていただきました。私のような、やんちゃで規格外の人間でも、ちゃんと活かしてくれた先生方や仲間に感謝です。そういう私も五回目の卯年が来て、孫三人の爺に

なりました。小学一年生の落着きの無い孫を見ていると、確実に血を引いているなど、安堵するのです。その孫がダンス教室に通いだし、自宅に大きな鏡を買ったそうです、孫には電話で「算数や国語よりダンスの方が大事だよ」と言つてあります。

足の速い子、歌の上手な子、絵の上手な子、手先の器用な子たちがもつともっと評価される時が来ることを望んでいる昨今です。

昨年の同期会には、多数の先生方にご出席をいただきました。八十歳を越えられた三年生の時の担任であつた、岩井豊子先生にもご出席をいただきました。なんと、家庭訪問の話になり、「あなたの家の前には川が流れていたよね」と先生。これにはびっくり、先生に訊ねました。「先生には今まで何千人、何万人の教え子がおられますか、全員のことを覚えていらっしゃるのですか」涼しい顔で「そうよ」????「実は会場に来る前に卒業アルバムを見て来たの」と、アルバムを見ると当時のことを思い出されることです。それ見ても意味が分からぬ私に

とっては驚異の記憶力であります。流石、先生は凄い。是非、次の同期会にも元気なお姿を見せていただきますよう、お待ちいたしております。

今年は、これまでに経験の無いよ

人と人とのつながり

現三年 佐藤天音

三月十一日の東日本大震災。それは、私たちにとって、初めての、そして最大規模の大きな地震でした。そして、私にとっても大きな影響を与えた一つの出来事でした。

この震災で、私は人とのつながりや、人のために自分ができる何かがあることを知ることができました。水も電気もガスも通らず、私と母は二晩ほど上中の体育館に泊まりました。その際に、トイレのための水くみなどのボランティア活動をし、また、夜中のトイレを懐中電灯で照らす仕事では、ほとんどゆっくり眠らずに仕事をしていました。そのときの私は、何かやろうかな、という軽い気持ちではなく、何かやらなければ、という責任感のような使命感のようなものがありました。

しかし、それは私だけではなく、元上中生だからとか、上中生がいつも親切だから手伝いたくて、と

いう、大変な事がいろいろ起きております。「くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますと共に同期会や同窓会が同窓生の心のよりどころとなりますよう、祈念申し上げます。

もう、地震の記憶も薄れて、元通りに復興している私たちの周りの環境ですが、未だに地震の傷跡が残っている所があります。今、私たちにできることは何でしょうか。それを考えていることで、私たち自身、成長できると思います。私は、自分たちの力を、日本の力を信じています。





仙台市立上杉山中学校 第17期同期会（還暦祝いの会）

同窓会役員と幹事の皆様のご指導ご協力を頂き、私達十七回生幹事総力を挙げての平成二十二年度同窓会が、無事終了しました。その高揚した気持ちのままに松島のホテルに移動し、十七回生同期会が開催されました。

同窓会幹事とは別に「同期会幹事」が結成され、準備万端整えてくれました。まず温泉に入つて身も心も清め、神殿で還暦のお祓いを受けました。出席者七十五名と寄付を寄せて下さった同期生八名、合わせて八十三名全員の名前を、最後までいいお声で読み上げて下さった神主さん。ユーモアを交えて



十七回生 佐 藤 恵美子

のご講話もありがとうございました。ご利益間違いなしと確信しました。

集合写真を撮つて、いざ宴会へ。

卒業以来の再会というドラマもそちこちにあり、友の顔に昔の面影を重ね、懐かしさと嬉しさに盛り上がつたことは言うまでもありません。

第二次会はホテル内ですが、かつての

わが若き日の幸福の涯なき行手おもうかな

十九回生 菊 地 信 一

一九六六年(昭和四十三年)卒業の十九回生同期会の活動報告と現況を報告します。卒業生は四百九十名で十一クラスの編成でしたが、一同が再び顔を合わせたのは、卒業以来三十年後のことでした。そのキッカケとなつたのが、一九九七年(平成九年)に開催された「上杉山中創立五十周年記念会」でした。勝山館で行われた祝賀会の出席者は、わずか八名の同期生。その際に、懐かしい恩師(加藤進一先生、佐藤正安先生、真壁雄一先生、佐藤芳男先生、梅津進先生)にお目にかかりました。

即ち「中学校卒業三十年」を機に、初の試みとして、恩師をお招きした「卒業三十周年記念同期会」開催の声が湧き上りました。そこで翌一九九八年(平成十年)に第一回の同期会を開催すべく、各クラスの連絡役として二十名の同期生に声を掛け、九十二名の参加

ナイトクラブながらのムードたっぷりのホール。カラオケを歌う人あり踊る人ありで、瞬く間に夜が更けていました。

それでも離れがたく、三次会は部屋に分かれて、年齢を忘れ、寝不足をものともせず、語り合いました。

中学時代を共に過ごした同期生の絆を再確認し、五年後にまた集まる約束し、爽やかな気持ちでそれぞれの現実の生活に戻つていったのでした。

第二次会はホテル内ですが、かつてのとなりました。(於メルパルク仙台)。以来、「ワールドカップの年に集ろう!四年に一度の集い」が合言葉となり、現在に至っています。以下に、これまでの開催実績を記します。なお、「泊まりにして、じっくり話したい」との意見が相次ぎ、第二回目からは宿泊を伴う同期会となっています。

第二回・二〇〇二年(平成十四年)、ホテルニューウエストにて。七十二名参加。八月十七日～十八日。第三回・二〇〇六年(平成十八年)、ホテルニューウエストにて。五十七名参加。八月十二日～十三日。第四回・二〇一〇年(平成二十二年)、作並温泉「岩泉旅館」にて。四十五名参加。九月十一日～十二日。八月の盆で、出席者が少ないと考え、初めての九月開催となりました。

この他、二〇〇〇年(平成十二年)には同窓会の幹事年度としてお手伝いを



仙台市立上杉山中学校 第19回生同期会

し、当日十月二十一日夜に、旧ろうふく会館にて五十九名の参加で親睦会を、取り行いました。合わせて同期会名簿作成の充実度は増し、現在卒業生の約七割の住所が確認できているところです。

今後は、来年に迫った、還暦記念の会を、どのように開催するかが課題です。また平成二十四年度の同窓会総会の幹事年度(六十五周年)にも当たるため、同級生一同、気を引き締めておられます。タイトルにある校歌三番の歌詞のごとく。

いずれにしても、継続することに意義があるとのモットーで、第一回目から幹事をしていただいている大浦良雅

君(現岡田)、西條洋子さん(旧矢野)、同窓会副会長の青原和子さん他十七名の皆さまに、この場を借りて、厚く感謝申しあげます。

上杉山中近況報告

教頭 佐々木 直也

今年の四月に上杉山中に転任してまいりました佐々木と申します。よろしくお願ひいたします。

平成二十三年度は、一年年六ヶ

ラス、二学年四クラス、三学年四クラス、杉の子学級一クラスの計十五クラス、総勢四八一名の生徒、職員四十三名でスタートしました。保護者の方々、地域の皆様のご協力に支えられて今年度も順調に活動していると自負しております。

学校行事では、五月に一年生が校外学習で山寺と平清水に、二年生が野外活動で田沢湖・盛岡方面に行き、貴重な体験を行ってきました。三年生の東京方面への修学旅行は、三月十一日の東日本大震災の影響で十月に延期になりました。現在は準備を行つてあるところです。

七月の合唱祭では、審査員の先生から、仙台でトップクラスの演奏というお褒めの言葉をいただきました。また、これからの大樹祭や職場体験などで、さらに人間に成長するためにも、ご支援をよろしくお願ひいたします。

定期総会のご案内

定期総会は、毎年10月の第3土曜日に開催しています。

会場、時間についてはその年の当番幹事が決めます。当番幹事は、その年度に還暦を迎える回生が担当いたします。是非、お誘い合わせの上ご参加下さい。

上中ホームページのご案内

上中の最新情報が分かり、懐かしい校歌も聞けます。同窓会のコーナーもありますので、是非ご覧下さい。

[仙台市立上杉山中学校](#)

[検索](#)

本誌題名『杉山臺』について

同窓会会費を集めていない我が上中において、同窓会会報誌を発行するための資金は皆無に等しい状況です。《…資金は極めて細々としたものです。》私達の孫にも等しい3年生が、卒業時にお母さんから頂いてきて納める「千円の同窓会入会費」が、同窓会唯一の収入です。この毎年度の新入同窓生からの収入をもって、同窓会は細々と運営をしております。その中から最小限に費用を頂いての会報誌の発行です。

このような状況下での同窓会会報誌

の発行ですので、【資金不足を少しでも補うことができればと、21・22年度の総会時は会場に『協力金募金箱』を置いて、協力金のお願いをしました。この初回の協力金は「8,000円」でした。今年度(22年度)は「49,100円」にもなりました。この中には、協力金募金の話を聞いた東京の一回生の方からの協力金も入っておりました。】…

※尚、23年度からは同窓会総会費に活動協力費として500円を加算して、ご協力いただくことになりました。

我が母校が所在する学区地域の歴史を振り返つてみたとき、校名とともに、現在に残る上杉の地名が生まれる根源となつてゐるにしえの地名「杉山臺」がそこにあるのです。

(一回生 芳賀)

本会報の題字は、前会長木皿謙氏の揮毫によるものです。

編集後記

今年は、大地震、津波、放射能汚染、台風等々、大変、災害の多い年となりました。この様な状況の中、とても感慨深く思います。同窓生として、隣に仲間がいることを力強く思います。今回も、快くご寄稿をお寄せ下さった皆様に、心から感謝申し上げます。(十九回生 菅原)



2年野外活動 農作業体験



ソフトテニス女子 市中総体優勝



野球 市中総体優勝